

やまたらけ

YAMADARAKE

SEPTEMBER

No. 78

2016

現代に 生きる 強力な男

法華経の聖地、七面山。50丁目には敬慎院があり、身延山を守護する七面大明神がまつられている。古くから霊山として信仰され、現在も多くの登詣者が敬慎院を目指す。その登詣は決して楽な道ではなく、人ひとときには強力な力を借り、祈りの道を踏みしめてきた。

強力とは、登詣者の往復を介助する案内役である。案内から荷運び、そして駕籠人足といって山駕籠に人を乗せて運ぶ役目も担う。山駕籠の重さは約20キロ。一つの山駕籠を担ぐのは4〜6人の屈強な男性たちだ。強力の仕事は、ただ山駕籠に人を乗せて担ぐだけではない。山駕籠に乗る人に寄り添い、また道中のアクシデントに備える。その険しい道のりを人を担いで登るには、強靱な体と精神が必要となる。

そんな話をするとう過去の話のように聞こえるが、過酷なその仕事を今もなお継承する人物がいる。早川町で唯一の強力、依田淳さん(37歳)だ。強力を仕事にして17年になる。

依田さんのお祖父さんは、赤沢集落最後の強力であった。小・中学生の頃、荷物持ちとして祖父の強力仕事を手伝ったことがあるという依田さん。祖父亡き後、とび職などで生計を立てていたところ「強力をやらないか?」そう誘われて本格的に強力仕事を始めたそう。その背景には「早川の人一人も強力をやっていないなんて」そんな想いがあったという。現在に強力を引き継ぐ依田さんの想いとは…。早川町と強力の今を考えてみたい。(玄蕃充子)

赤沢宿と強力

早川町赤沢集落は、日蓮宗の総本山・身延山久遠寺から霊場・七面山の間にあり、宿場としてだけではなく参詣客の人足仕事や寺や坊への物資・荷物運搬の役目も担っていた。かつて、参詣者を対象にした人足は、「アテバン」と呼ばれる客の要望に応じて人を手配する役職によって、赤沢集落内で平等にふりあてられていたという。

赤沢集落にとって参詣者の人足仕事は大切な現金収入源であった[早川町1992『赤沢―山梨県早川町・伝

統的建造物群保存対策調査報告』46頁というが、昭和50年(1975)に物資の上げ下ろし用のケーブル架線が敷かれ、また七面山の麓まで道路が整い、自動車で行けるようになると赤沢宿の利用者が減少し、比例するように入足仕事も少なくなっていた。だが、人足仕事のひとつである強力は、決して消滅してしまっただけではない。今もなお、その仕事を引き継ぎ、担う人々がいる。では、強力の仕事とは、実際にはどのようなものなのだろうか。7月某日、依田さんの強力仕事に同行した。



赤沢宿のえびす屋さんが所蔵する、昭和15年頃に撮影された七面山の山駕籠の写真。撮影場所はどちらも羽衣橋付近か。

強力的一天

早川町で唯一の強力である依田さんは、身延町や他の地域の人々と仲間になって駕籠を担ぐ。

■1日の流れ

【7時頃】山駕籠がしまっている小屋に集合。駕籠の組み立てや架線で自分たちの宿泊荷物を運ぶ。



小屋から出された山駕籠。五寸ほどの太さの丸太に、竹を編んだ駕籠が取り付けられている。軽量化が優先されたのか質素な作り。

【8時頃】表参道登山口に移動し、お客様を待つ。



登山口へ移動。駕籠を肩に乗せ二人でバランスをとりながら軽々と運ぶ。



途中でほどけないように、ぎゅーっと力を込めて

強力さんの服装も、最近では機能的かつスタイリッシュ。足元はバラッタピ(スパイク付足袋)。機能的なタイツを履いて、速乾性のTシャツが一般的か。

真ん中の棒の前後に、担ぐための丸太をヒモでくくりつける。くくりつける場所は、今までの山行で削れてしまっている。



駕籠の組み立て方を解説!



ダンボールには、強力さんが山の上で夜を過ごすための荷物が。飲み物、食べ物たっぷり。これは別途、架線で一足先に山の上へ。

小屋から出されたばかりの駕籠。全長3m、高さ1mぐらいか。



【8時半】記念撮影後、いざ出発。念

昭和8年生まれの84歳のこの男性は、今回が初めての登詣であった。七面山に登ることが念願であったという。



表参道登山口。ここで初めてお客さんと対面。現実問題として、小柄な方だとラッキー、大柄な方だと…。今日明日の行程を占う一瞬。

程なくして、お客様と合流。この日のお客様は埼玉県熊谷市からきた20名程度の団体客だ。その中年配の男性が今回、山駕籠で敬慎院を目指す。



四人の立ち位置は、山頂まで変わらない。その日のメンバーに応じて、誰がどこを受け持つか決まっているようだ。

今回、前2人、後ろ2人の4人組で山駕籠を担ぐ。20〜30歩進んだら一度止まり、肩を入れ替える。少し休憩したら「さあつ」という掛け声。

願叶ってか、一見乗り心地が不安定に見える山駕籠だが、この男性いわく、「新幹線」「特等席」であるという。男性は始終笑顔が絶えず、カメラに向けてVサインを作るなど（表紙写真）とても嬉しそうであった。



駕籠に乗ったお客様を、親族が撮影。それだけ珍しいこと。みんな興味津々。

ゴウリキコラム ①

強力の勲章「コブ」

駕籠を担ぐ強力さんの首の後ろには、必ずコブがある。駕籠の丸太が首の後ろに当たるためにできるのだ。

首をガードしたりクッションになるようなものは全く付けない。丸太と皮膚が擦れて最初は皮が剥けて腫れる。痛くてたまらないが、二度三度と登るうちに慣れるという。ラクダのように、ここに栄養を貯めて駕籠を担ぐとは、強力さんならではの冗談。依田さんのコブも立派な強力の証だ。

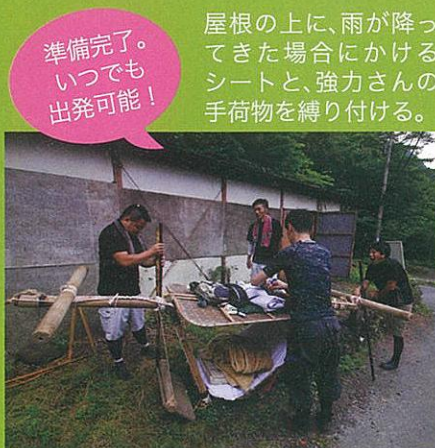


写真は登る前のもの。登り終えた後は、腫れてさらにコブが大きくなるというが、残念ながら撮影し忘れた。



二丁目の神力坊での休憩風景。駕籠を下ろすと、お客様が駕籠からスムーズに降りられるようにサポート。細かい気遣いが嬉しそう。

け声で再び歩き出し、また20〜30歩進んだら止まり、肩を入れ替える。その繰り返しである。掛け声には、タイミングの良し悪しがあり、今日は上手くかみ合わないな、今日は調子が良いなと、その時によって感覚が異なるという。



準備完了。
いつでも
出発可能！

屋根の上に、雨が降ってきた場合にかけるシートと、強力さんの手荷物を縛り付ける。



うん、
なかなかいい
クッション！

お客様の乗り心地を良くするために、布団をシートを駕籠に縛り付ける。

2丁、13丁、23丁の坊で各20分ほど休憩し、36丁の坊で昼食をとる。その後、お客さんの要望で2度ほど休憩し、46丁の和光門、50丁の敬慎院まで仲間と息を合わせてラストパートをかける。

【14時半】敬慎院に到着。標高差1200m、距離にして5キロの道のりを、約6時間で担ぎ上げた。



ゴールは和光門から続く坂道を登ったところにある、敬慎院の鐘の前。ここでお客様は駕籠を降り、強力さんと挨拶。後は歩いて敬慎院へ向かう。

敬慎院に到着したら、本日の強力の仕事は終了となる。敬慎院には強力のリ休憩所があり、一休みして入浴を済ませたら、その後はたくさんの強力仲間が集まって大宴会となる。依田さんは、年齢も住む場所も異なる仲間と騒げるこの宴

会が、なにより楽しみだという。この日も12人ほどの強力仲間で大層盛り上がったそうだ。



1日の疲れを癒す強力さんたち。架線で運んだ荷物に入っていた食料で、各自がつまみを作り振る舞う。料理上手がいるのか、なかなか豪華。

【翌日】予定時間にお客様と集合し、下山する。



依田さんいわく、山駕籠に乗っている人が寝てしまうと「やった」と嬉しくなるといふ。なぜならば、お客様

ゴウリキ コラム ②

敬慎院への道中、一箇所だけ駕籠から降りて歩かなければならないところがある。46丁目の和光門だ。ここが敬慎院の入り口。ここからは神聖な場所なので、駕籠に乗ったままでは失礼ということなのだろう。

和光門の前には、「下乗」と書かれた立て札がある。この日のお客様も、門の前で一旦おり、歩いて門をくぐった。



門の前で
駕籠から
降りて一礼



門を歩いてくぐる



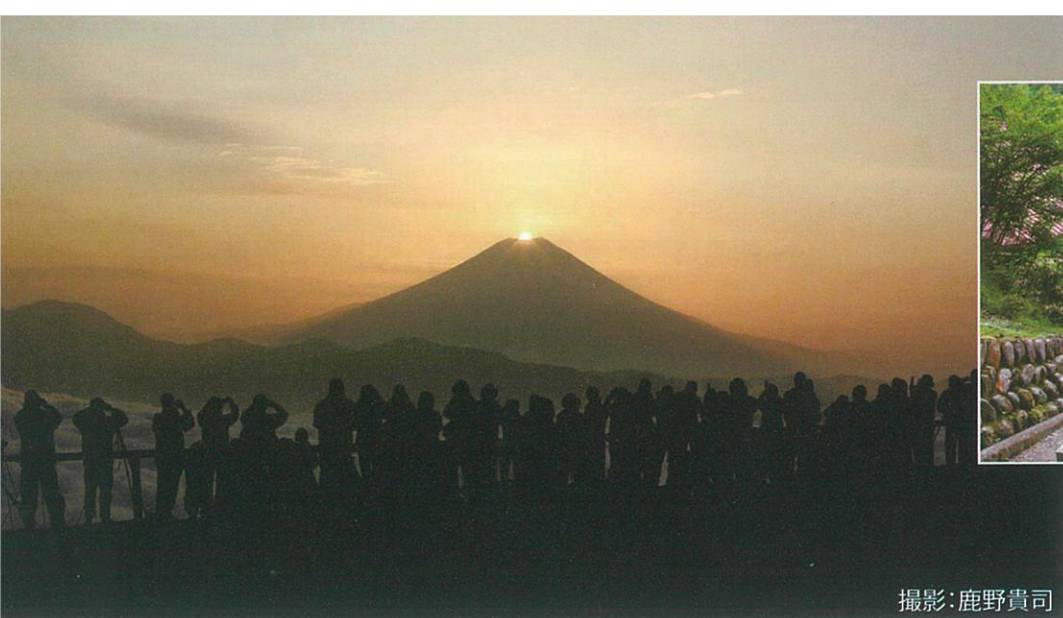
その後、再び駕籠に乗り、さあ、敬慎院まであと一息!

が駕籠で寝てしまうというのは、乗り心地がよい証拠で、すなわち強力として腕が良い証だからだ。
この日も、山駕籠の中でうとうとと心地良さそうに寝てしまった男性に、依田さんはほくそ笑む。

山駕籠を担いで — 依田さんの強力 —

依田さんにくる強力の依頼の多くは指名で、リピーターのお客様が主だ。だが山駕籠は新規の依頼も多い

という。それは、年を重ねて七面山に登るのが困難になってなお、敬慎院を参拝したいと希望する人々がいるからである。よって、山駕籠の利用者は、高齢の方、体重の重い方、足の悪い方など自分では長時間登るのが困難な方が中心となる。通常の山駕籠は4人担ぎであるが、体重が70キロ以上の人を乗せるときは6人で担ぐ。もちろん強力の利用者は、信仰心に厚い信者だけではない。趣味の登山者や外国人参詣客の利用も少なくないそうだ。



↑その後、敬慎院(奥建物)から遥拝所へ向かうお客様とすれ違う。⇐遥拝所からは富士山が目の前に。写真は彼岸に見られるダイヤモンド富士の日の御来光。

撮影：鹿野貴司

七面山とともに生きる

依田さんは、年間30回程度、強力として七面山を登る。そのうち山駕籠担ぎは10回程度。初夏から10月まで登詣者は増え、毎週土日は強力の仕事でいっぱいになるという。

駕籠人足ではない案内役の強力は、何も起こらなければ比較的気楽な仕事ではあるが、アクシデントが起こらないとは限らない。登詣者が具合が悪くなり倒れてしまうこと、途中で歩けなくなり登詣を断念することや、ときには持病などによって、お客様が亡くなってしまふこともある。そのようなアクシデントに対応できるよう、赤十字病院で安全管理や応急処置を学び、AED講習などを受けたという。依田さんのプロ意識の高さがうかがえた。

「お客様あつての強力」。依田さんは真剣な表情でそう言った。強力と参詣者は金銭のやり取りだけではなく、お互いの誠意で成り立つ関係だと話す。代金を貰ったからだ山駕籠を担ぐのでもなく、また金銭を払ったからといって、道中が祈りの

道・修行の道であることを忘れてはならない。

嬉しいのは「ありがとう」と言われること。ときどきお客様から手紙が届くこともあるという。そういうときに強力をやっていてよかったと強く感じるそうだ。「昔から今まで強力という仕事が続いているのはそういうこと」。そう依田さんは言う。

赤沢宿は、自らも七面山を信仰しながら、その信仰の恩恵によって生活が成立してきた集落である。依田さんは、強力仕事とは別に、年に一回、お正月に赤沢集落の人と七面山に登詣するという。自身の子どもには3歳の頃から自分の足で登らせているそうだ。

依田さんは、自らは特別信仰心が強いわけではないと話すが、七面山によって赤沢集落が栄え、代々生きてきたこと、今も七面山が生活の一部として当たり前のものである自覚があるという。

——「早川の人々が1人も強力をやっていないなんて」。依田さんが強力仕事に踏み切ったきっかけは、同時に当たり前であった七面山、参詣者と

の関係を見つめ直すきっかけでもあったのだろう。

信仰だけではなく、その恩恵に感謝しながら強力として役目を果たす姿には、七面山とともに生きる覚悟がみえる。七面山があり、参詣者がいて、強力がいる。赤沢集落の生活を支えてきた強力文化は確かに依田さんが繋いでいる。(玄蕃充子)

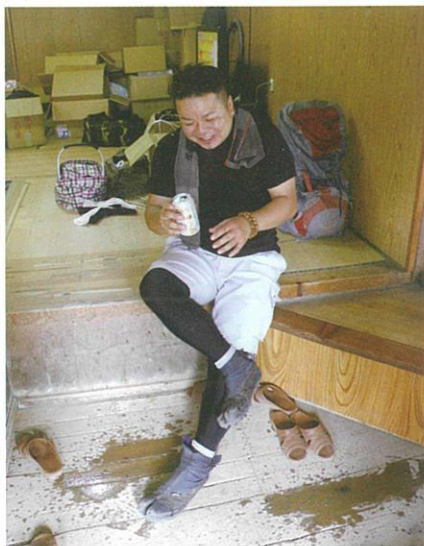
早川町唯一の強力(2016年8月31日現在)

依田 淳(よだ じゅん)

1979年生まれ。生まれも育ちも早川町赤沢集落。本業は木工業。敬慎院の修繕も手がけたばかり。美しい奥さんとサッカーが上手な3人息子が自慢の良きパパでもある。

依田さんが知る強力の中で、一番若い人は30歳。過酷な仕事ゆえ後継者がいないのが現実だという。早川町民で、強力をやってみたいという方は大歓迎という。

また、大事な商売道具である山駕籠を作る人、直せる人がいないのも問題とのこと。見様見真似で修繕しているが、今の山駕籠も10年程使用していて、この先、不安も感じているそうだ。



11月3日(木)~11月27日(日)

「永瀬 天・創作人形展」



創作人形作家、永瀬 天(ながせ てん)氏の展覧会を開催致します。永瀬氏は、南アルプス渓谷の豊かな自然の中で創作活動をし、主に東京でのグループ展で作品を発表してきました。氏によって生み出される『無垢なひとの姿』は、魂の器のように繊細で、その表情には、観る者を捉える力強さがあります。

今回、地元では初めての作品発表となります。静かな渓谷の里に訪れた美しい秋の景色とともに展覧会をご覧ください。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

永瀬 天 / 1967年早川町生まれ新倉在住

早川創造空間 COCOROTO 展覧会

9月17日(土)~10月23日(日)

鹿野貴司写真展「はやかわ移動写真館・再び」

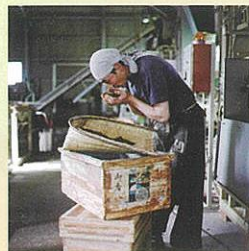
町制施行 60 周年記念写真集「日本一小さな町の写真館」の完成に合わせ、昨年に続いての開催です。今回は早川町の皆さんの日常生活や行事、風景を展示いたします。ぜひご覧ください。



雑穀の収穫(稲又集落)



お花見(茂倉集落)



紅茶づくり(本村集落)

10月23日(日) 鍵屋一周年記念イベント開催!!

奈良田集落内の古民家カフェ鍵屋が、10月にオープン1周年を迎えます。

これを記念して、日頃の感謝を込めたイベントを行います! 秋の奈良田を満喫できるサービスをご用意しておりますので、この機会にぜひ足をお運びください。



日時 / 2016年10月23日 10:00 ~

内容 / 奈良田エコツアーの開催、奈良田産きのこ汁サービス、ユネスコエコパーク記念品プレゼント

東京でも同じ写真が見られる!

11月8日(火)~21日(月) 新宿ニコンサロンにて 写真展を開催!

日時 / 2016年11月8日(火)~21日(月) 10:30 ~ 18:30 (最終日のみ 15時まで)

会場 / 新宿ニコンサロン(東京都新宿区西新宿 1-6-1 新宿エルタワー 28階)

※無休・入場無料

<問い合わせ>

古民家カフェ鍵屋

水曜定休(祝日の場合は翌水曜)

営業時間 / 10時~16時(冬季 15時まで)

電話・FAX / 0556-20-5556

<問い合わせ>

はやかわ創造空間 COCOROTO(ココロト)

開館時間: 午前10時~午後5時、月火休館(祝日の場合は開館、水曜休館)

山梨県南巨摩郡早川町保1525 E-mail: cocoroto.cs@gmail.com

電話: 0556-45-2770 【ブログ】 <http://cocoroto.cocolog-nifty.com/blog/>

早川町が
生き残る道は
自然を守ることにある

西山温泉 元湯 蓬莱館

〒409-2702 山梨県南巨摩郡早川町湯島 73
TEL: 0556-48-2211(代)/FAX: 0556-48-2366

奈良田温泉
七不思議の湯
白根館

日本秘湯を守る会々員
日本源泉湯を守る会々員

〒409-2701
山梨県南巨摩郡早川町奈良田 344
電話 0556-48-2711
FAX 0556-48-2770
www.nukuyu.com/shiranekan/

毎分 1,630ℓ 湯温 52℃の掘削自噴火温泉では日本随一を誇る新湯湧出
全てのお風呂、客室風呂、給湯、シャワーに至るまで 源泉掛け流し

全館源泉掛け流しの宿
西山温泉 慶雲館

〒409-2702
山梨県南巨摩郡早川町西山温泉
TEL 0556-48-2111
FAX 0556-48-2611 <http://www.keitunkan.co.jp>

早川町 望月石材店
☎0556-45-2601

身延町 飯富展示場
☎0556-42-4440

〒400-0608
山梨県南巨摩郡富士川町十谷 4249
電話 0556-27-0224
フクシミリ 0556-27-0227

十谷上湯温泉
源氏の湯

日本秘湯を守る会々員 www.nukuyu.com/genji-yu/

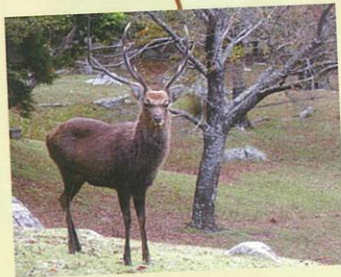
新築、改築、マイホームの事なら何でもおまかせ

日本建築のプロフェッショナル
株式会社 望月工務店

〒409-2713 山梨県南巨摩郡早川町保 1766
TEL・FAX 0556-45-2661

10月15日(土)～16日(日)

ワイルドライフツアー「ニホンジカに迫る」



秋はニホンジカの恋の季節。そんな特別な季節に、シカに詳しいガイドと一緒に森を歩いてシカの生活に迫りましょう。

森の中でオスジカが鳴きあう声を聞いたり、痕跡を辿ってみたり、声の持ち

主を探したり…。様々な手法を使って、楽しみながら、とことんニホンジカに迫るツアーです。

痕跡を見て、生きものの気配や様子を感じられるようになると、森歩きの楽しみも倍増です。

日程／2016年10月15日(土)～16日(日)の1泊2日

対象／中学生以上

参加費／大人14,000円(1泊3食付・税込)

定員／16名

締切／2016年10月12日(水)

※定員になり次第締切

南アルプス生態邑主催イベント。宿泊場所は、どちらも早川町営ヘルシー美里です。



<問い合わせ・申し込み>

南アルプス生態邑 ヘルシー美里

電話：0556-48-2621 / FAX：0556-48-2622

イベント詳細 <http://www.hayakawa-eco.com/>

E-mail：info@hayakawa-eco.com

9月24日(土)～25日(日) / 25日(日)～26日(月)

早川町めぐりプラン「紅葉の奈良田と七不思議」



今回の早川めぐりの地は早川町の秘境「奈良田」。そこには「その水を飲めばたちまち病が治る」という井戸・御符水をはじめとする七不思議の伝説が残されています。

奈良田の歴史民族資料館にも立ち寄り、終了後は奈良田

の里温泉や古民家カフェでの休憩(それぞれ別途有料)も楽しめます。ガイドと一緒に紅葉を楽しみながら、七不思議伝説をめぐりましょう。



日程／2016年9月24日(土)～25日(日)または25日(日)～26日(月)の1泊2日

対象／制限なし

参加費／大人：9,500円、子ども：8,800円(1泊2食付・歴史民俗資料館入館料も含む)

定員／9名

締切／各宿泊日の3日前までに予約

※定員になり次第締切

10月23日(日)

秋の早川大トラねこ市

早川のいいもの、うまいものが大集合！



早川の秋の恵み、自慢の特産品、面白い工芸品、体験など様々なお店が出店する予定です。秋の一日を、早川の美味しいものを食べて、いい温泉に入って、山里の景色を見て過ごしましょう！

日時／10月23日(日)

9:00～13:00

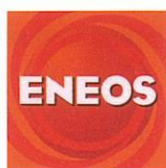
場所／西山農園・湯島の湯駐車場(早川町湯島)

<問い合わせ>

早川町観光協会

電話：0556-48-8633

<http://hayakawakankou.daa.jp>



浜田屋商店
電話 0556-48-2311

早川町で感動体験を…
南アルプス生態邑
光源の里温泉 ヘルシー美里
南アルプス邑野鳥公園



ご予約・お問い合わせ

TEL/0556-48-2621

<http://www.hayakawa-eco.com/hmisato/>



生命保険、損害保険のことなら

株式会社・さいとうエージェンシー
tel.055-280-3360 fax.055-280-3361

自動車販売、オートリース、レンタカーのことなら

有限会社 S・T・E・P
tel.055-280-3350



〒400-0422 山梨県南アルプス市荊沢 1356-1

防災
用品

非常用アルファ米・保存水・発電機
簡易トイレ・防災用毛布・テント等

オフィス事務機(有)

〒409-3244

山梨県西八代郡市川三郷町岩間 2077

TEL.0556-32-1003 FAX.0556-32-1004

霊峰七面山の登山口でああなたの旅を支える



株式会社
俵屋観光
バス ジャンボタクシー



有限会社
俵屋旅館
宿泊 宴会 法事などに

〒409-2732
山梨県南巨摩郡早川町高住 621
電話 0556-45-2500

南アルプス街道の交通安全と
清流早川の自然を守ることを永遠のテーマに
地域社会の発展に貢献する事を目指します。

早川砂利協同組合

理事長 井上聡一郎

山梨県南巨摩郡早川町小縄 26

電話 0556-45-2450



おにぎりを握る 赤沢のお母さん

写真：鹿野貴司

七面山への参詣客相手の仕事で、今も残るものの一つが「おにぎり作り」である。山へ登る方々へ、また山から下りてきた方々へ、表参道登山口でこのおにぎりを手渡す。多い時には500人を超える団体からの注文もある。そんな時は、夜中から赤沢集落の女衆が集まり握り始める。参詣客一人当たり二つ、合計で1000個握る夜もある。

江戸屋旅館の女将 望月絹(きぬ)さん(91歳)は、江戸屋に嫁いだ時からおにぎりを握り続ける大ベテラン。炊きたてのご飯が入った巨大なおひつから、手にあふれんばかりのご飯をとりだし、手の中で数回くるくると踊らせると、瞬く間に形のいい三角おにぎりができあがる。大きさも形もピタリとそろったおにぎりが、長方形の木の箱に行儀よく並んでいく。

握り終わる頃にはもう夜明け。熱々のご飯で真っ赤になった手を振って、おにぎりを手にした参詣客を送り出す。

平凡社より
9月下旬発売!

鹿野貴司 写真集
『山梨県早川町 日本一小さな町の写真館』

約4年間にわたって撮影した早川町の人々や行事、風景を、一冊の写真集にまとめました(3,800円※税別)。写真集の出版を記念して、11月には東京・新宿で写真展も行います。(詳細は前頁イベント欄参照)



読者の声

●早川のラフティング、またやりたくなりました!生き生きとした大窪さんの魅力、早川でもっともっと輝いて欲しいです。(西脇市Kさん)

●早川でラフティング、スリル満点で楽しそうですね。子供の頃、台風の後で荒れ狂う富士川のラフティングを見て、恐怖を覚えた経験がありますが、それとは全く違う興味を感じます。「誰のせいにもしない生き方」いいですね。(匿名希望さん)

編集部:今年も夏も、本流堂ラフティング、賑わっていましたよ。大窪さんの魅力に取りつかれた町外の方、大窪さんの姿に刺激を受けた町民も多いはず。ちなみに、昔、早川の子どもたちも、台風後の川を、タイヤのチューブに乗り流されて遊んでいたようです。恐ろしい!

地域発展のお手伝い! 地域の暮らしを守る!

早邦建設株式会社



【本社】〒409-2732 山梨県南巨摩郡早川町高住 645-27
TEL.0556-45-3000 FAX.0556-45-2288
【生コンクリートプラント】TEL.0556-45-2700

<http://www.soho3000.com/>

NEXT やまだらけ

79号特集(12月上旬お届け)

「早川ジビエを召し上がれ」

流行が続くジビエ。なぜ今、ジビエが注目されているのか。野生生物を捌いて食べるのが、単に珍しいからとか、美味しいからというだけではないだろう。

早川町のジビエ工場の取り組みを通して、野生生物を食べることの意味について考えてみたい。

光を失って心が見えた
全盲先生のメッセージ
新井淑則 著
定価(本体1,400円+税)
34歳で全盲になった中学校教師が音声パソコンを使い、自ら執筆した、感動のノンフィクション!

金の星社

東京都台東区小島1-4-3
TEL.03-3861-1861
FAX.03-3861-1507

ドラマ化
話題作



日新火災海上保険 代理店

幡野保険事務所

〒409-3306
山梨県南巨摩郡身延町夜子沢4020
TEL 090-8014-1337
FAX 0556-42-3073



二十四節気手帳
24seasons
Notebook
発売中です

f 雨宮 和久

月禾堂 TEL(0556)22-0445

やまだらけの定期購読をご希望の方は、NPO 法人日本上流文化圏研究所の正会員、賛助会員への登録をお願いいたします。詳細は下記の問い合わせ先まで。

今回の取材の中で、印象に残った話の一つに「山に呼ばれる」というキーワードがあります。早川町に住む人は、ふとしたタイミングで「七面山に登りたい(登ろう)」と思うのだとか。近代化が進むにつれ、希薄化してしまったようで、きちんとつながっている関係に、七面山と早川町が歩んできた歴史を感じました。私も機会があれば再挑戦したいです。(玄蕃充子)

山を覗けば宝の山
やまだらけ

発行元/NPO法人日本上流文化圏研究所
住所/山梨県南巨摩郡早川町薬袋430 〒409-2727
電話/0556-45-2160 ファクシミリ/0556-45-2268

<http://www.joryuken.net/>